

# インドネシアの中学校美術教育の教材について

福田 隆真・佐々木 宰\*

On the Learning Materials of Secondary School Art Education in Indonesia

FUKUDA Takamasa and SASAKI Tsukasa\*

(Received August 5, 2013)

キーワード：インドネシア、中学校、美術教育、教材

## はじめに

本稿は文部科学省科学研究費補助金に基づく研究の一環である（注1）。アジア地域の美術教育の調査をその国や地域の文脈においてどのように位置づけられ、内容をどのように実施しているかを調査している。本稿の調査は2012年11月に実施した（注2）。

インドネシアの美術教育の調査は筆者がすでに1995年から1999年までに、教育課程、教育実践、教員養成、美術専門教育等についての調査報告を行っている（注3）。その時点から15年以上経過し、美術教育の内容の変化が見られるので、本稿で新たに中等教育の概要を報告する。

## 1. インドネシアの中学校美術教育

インドネシアの2013年の教育課程によると、中学校の教科は「宗教教育」「パンチャシラ・公民教育」「国語（インドネシア語）」「英語」「数学」「理科」「社会」「芸術文化」「保健体育」「地域裁量教育」がなされている（注4）。その中で美術に関する内容は「芸術文化」の教科で行われている。「芸術文化」は美術のほかに音楽、舞踊、演劇が含まれている。授業時間数は週当たり「芸術文化」で各学年3時間となっている。

美術の内容は美術文化の能力の要点と基礎において、以下のように定めている（注5）。

### 第7学年

要点：1 信仰されている宗教の教義を尊重し認識する。

基礎：1.1 神の恩恵を受けるもののように宗教と美術作品を受け入れ、感じ、尊重する。

要点：2 地域社会や環境での効果的な交流において、誠実な態度、訓練、責任感、関心（寛容、相互協力）、恩恵、自信を尊重し認識する。

基礎：2.1 芸術的な活動を通して、公平さや鍛錬を尊重する態度を説明する。

2.2 美術や産業に対する責任、関心、上品さの態度を説明する。

2.3 美術作品全般において自信、内的な動機、関心等の態度を説明する。

要点：3 視覚的な現象や出来事に関連する科学的知識、技術、美術文化に対する知識欲求に基づいて、美術の要素、理念、過程の知識を理解する。

基礎：3.1 絵画と工芸を理念的、操作的に分析する。

要点：4 学校やその他の同等な機関で、学習に適合する具体的カテゴリー（使う、解く、繋ぐ、変える、作る）と抽象的カテゴリー（書く、読む、描く、作文）において、試作、行動、提供をする。

\*北海道教育大学釧路校

- 基礎：4.1 植物、動物、自然物を描く。  
4.2 植物と動物を幾何学的に変形させて色々な装飾を描く。  
4.3 染織工芸において色々な装飾を活用する。  
4.4 木工において色々な装飾を活用する。

## 第8学年

第8学年では第7学年と以下の部分が異なっている。

- 要点：3.1 イラストレーション、写生、工芸について理念的、実践的に統合する。  
要点：4.1 多様な材料と技法で写生する。  
4.2 手描きとデジタルでイラストレーションを描く。  
4.3 硬い材料による多様な技法の工芸において、植物、動物、幾何学の模様を活用する。  
4.4 タペストリーの作品において、植物、動物、幾何学の模様を活用する。

## 第9学年

第9学年では第7学年と以下の部分が異なっている。

- 要点：3.1 絵画、彫刻、グラフィックについて理念的、実践的に統合する。  
要点：4.1 多様なメディアと技法で絵画作品を制作する。  
4.2 多様なメディアと技法で彫刻作品を制作する。  
4.3 多様なメディアと技法でグラフィック作品を制作する。  
4.4 展覧会を計画し実施する。

## 2. 中学校美術の教材構成

インドネシアの中学校美術の教科書は中学校1学年から3学年（7学年から9学年）が一冊の本にまとめられている。全体は12章からなり、第1章～第4章が中学校1学年、第5章～第8章が中学校2学年、第9章から第12章が中学校3学年となっている（注6）。以下は、各章の内容構成である。

### 2-1 中学校1学年前期

#### 第1章「地域の応用美術」

##### A 美術の理解

- 1 芸術の分類 a美術、b音楽、c舞踊、d演劇（ドラマ）、e文学
- 2 美術の分野 a純粋美術、b応用美術
- 3 美術作品の次元を知る a平面作品、b立体作品

##### B 応用美術を知る

- 1 平面作品 2 立体作品

##### C 地域の応用美術の特徴を鑑賞する

- 1 技術、2 材料、3 機能

#### 第2章「応用美術作品を表現する」

##### A 工芸の形を描く

- 1 美術作品制作の画材 a乾燥した画材、b湿った画材
- 2 工芸作品の出来上がり図を描く

##### B 工芸作品制作の計画

- 1 線、2 面と形、3 材質感、4 色彩、5 機能

##### C 地域の工芸作品の制作過程

貼り付けに技法によるお面作り

## 2-2 中学校1年後期

### 第3章「地域の応用美術作品の鑑賞」

- A 地域の応用美術作品の識別
- B 地域の応用美術作品のアイデアと技術の特徴の鑑賞

### 第4章「地域の美術的創造を表現する」

- A 地域の筒状美術作品（花瓶など）をイメージし描く
- B 美術作品の準備
  - 1 粘土の使い方、2 粘土による成形
- C 美術作品の制作
  - 1 粘土による美しい形作り
    - a野焼の窯、b樽状の窯、cボトル状の窯、d電気窯
  - 2 絞り染めの制作
    - a絞り染めの基本的装飾のモチーフ、b絞り染めの装飾モチーフの制作
- D 展覧会の構成における美術作品の整理
  - a案内者の活動、b実行責任者、c秘書、d会計係、e設備備品係、f飲食係、g記録係

## 2-3 中学校2年前期

### 第5章「ヌサンタラ（注7）の応用美術」

- A ヌサンタラの応用美術の種類
  - 1 バティック、2 テヌン（織物）、3 刺繍、4 アニヤマン、5 皮革工芸、6 木彫
  - 7 金属工芸、8 陶芸
- B ヌサンタラの応用美術の特徴

### 第6章「テキスタイルと絵画」

- A テキスタイルのデザイン
  - 1 バティック装飾の様式、2 バティック模様デザイン
- B テキスタイル製品の制作技術
- C 絵画作品
  - 1 描画による創造的志思考、
  - 2 絵画の種類
    - a具象絵画、b表現的絵画、c構成的絵画、dイラストレーション、e装飾絵画
  - 3 絵画の媒体と用具
  - 4 イラストレーションの制作

## 2-4 中学校2年後期

### 第7章「ヌサンタラの応用美術の鑑賞」

- A ヌサンタラの応用美術作品の形と技術
  - 1 作品の解説例
    - a手工芸、bワヤン
  - 2 他の美術作品の鑑賞
    - aお面、bワヤン人形劇、cテキスタイルと服飾、d家の形と装飾
- B ヌサンタラの応用美術作品の評価
  - 1 大衆性とヌサンタラの美術鑑賞、2 美術鑑賞過程の段階、3 ヌサンタラ美術作品の特徴と評価

### 第8章「テキスタイル、グラフィック、美術作品展」

- A ヌサンタラのテキスタイル作品の制作
  - 1 バリの織物のプリント、2 バリの織物のテーブルかけの制作

- B グラフィック作品の創造
  - 1 用具と材料、2 制作方法
- C 美術作品展の準備
- D 美術作品展

## 2-5 中学校3年前期

### 第9章「地域の純粋美術」

- A 地域の純粋美術を知る
  - 1 絵画、2 彫刻、3 グラフィック
- B 地域の純粋美術の鑑賞
  - 1 地域の純粋美術のアイデアと機能の特徴
  - 2 地域の美術のデザインと技術における類似と相違

### 第10章「純粋美術作品の創造」

- A 純粋美術作品の作品制作
  - 1 絵画の媒体と技術
    - aキャンバスに油彩画、bキャンバスにアクリル画、cキャンバスに水彩画、d紙にパステル画
  - 2 表現的な絵画
- B 純粋美術作品におけるヌサンタラの美術の要素
  - 1 ヌサンタラの絵画作品
    - a絵画の媒体と技術、b種類と機能、c様式、d主題と登場人物
- C 絵画を通してのヌサンタラの美術的要素の発展

## 2-6 中学校3年後期

### 第11章「インドネシアの純粋美術作品」

- A インドネシアの純粋美術の発展
  - 1 先史時代、2 ヒンドゥー時代、3 イスラム時代、4 現代、aラダン・サラ(画家1814-1880)の始まりの時、b美しいインドネシアの時代、cインドネシア美術家協会の時代、d日本占領時代、e革命期、f1980年代、g現代
- B インドネシア純粋美術の様式と方向性
  - 1 写実主義、2 自然派、3 印象派、4 表現主義、5 立体派、6 ロマン派、7 超現実主義

### 第12章「純粋美術作品の多様な表現」

- A ヌサンタラ美術における純粋美術作品の表現
  - 1 グラフィック美術
    - aグラフィック美術の種類、1)凸版、2)凹版、3)平版、4)シルクスクリーン
    - bグラフィック美術作品の制作過程、1)木版、2)エッチング、3)リトグラフ、2 陶芸作品、a美術品としての陶芸、b陶芸制作の過程、1)こね粉の利用、2)成形、
- B アジア以外の美術の要素による純粋美術の作品
  - 1 アジア以外の純粋美術の要素 a未来派、b構成主義、c抽象表現主義、dポップアート、eオプティックアート、fコンセプチュアルアート、
  - 2 プラカードの技法によるアクリル絵画制作
- C 美術展
  - 1美術展の準備、2美術展の実行、3展覧会活動の評価

## 3. 教材の特徴

前述の中学校の美術に相当する3年間の美術教科書の教材を概観すると、以下のような特色が見られる。

### (1) パンチャシラを基礎とする特色

インドネシアの国是であるパンチャシラにはインドネシアの統一や社会的公正そして多様性の中の統一が謳われており、美術教科書においても特定の民族の伝統的作品を紹介するのではなく、「地域の工芸」「地域の美術作品」等のような呼称により、地域を特定することなくインドネシアの特色を紹介している。

### (2) ヌサンタラとインドネシアの混在

インドネシアは多民族国家で多数の諸島からなり領土・領海も広域に亘っている。また1945年の独立以前には多数の民族国家が存在しており、ヌサンタラと呼ばれる領土・領海概念も存在している。本稿の美術教科書ではインドネシアとヌサンタラの用語が混在しており、民族の集合体を強調する場合と国家を強調する場合に使い分けているように見られる。

### (3) 民族文化に基づく工芸の紹介と純粋美術の紹介

近代以前の多民族の集合体に存在してきた民族文化における工芸作品が多数紹介されている。陶芸、染織、木工、籐細工、金工などである。そして20世紀に入ってから近代美術の概念の影響とともに、絵画、彫刻、グラフィック（版画やデザイン）が教材として取り入れられている。伝統的なヌサンタラ美術とインドネシア国家となつてからの美術の両者を取り入れている。

### (4) 知識・技術の学習

教科書全体では鑑賞の内容も含めて、知識や技術の習得を重視している。教科書の各章の末尾には、練習問題が設けられ、各セメスターの末尾には評価のための問題が設けられている。それらは主に知識の習得による評価となっている。こうした美術の基礎的知識を習得する教育内容は、2000年以前のシンガポールや現在のマレーシアの教科書や参考書にも見られる。

## 注

- 1 本研究は平成24年度科学研究費補助金による基盤研究(C)「アジアにおける美術教育の文脈研究」(研究代表者:福田隆眞、研究分担者:佐々木幸、課題番号:24531135)の一部である。
- 2 本調査にあたり、インドネシア教育省教育課程教科書センターのDiah Hariabtiセンター長とDiana Damey女史の協力を得た。また、広島大学国際センター中矢礼美准教授からの資料提供を受けた。
- 3 福田、佐々木、小平、「インドネシアにおける美術教育について(1)(2)」(山口大学教育学部教育実践センター研究紀要7、8、1995、1997)、福田、佐々木、「インドネシアの美術教育における学習指導要領の位置づけについて」(山口大学教育学部教育実践センター研究紀要8、1997)、福田「インドネシアの教員養成における美術教育カリキュラムについて」(山口大学教育学部教育実践センター研究紀要9、1998)など。
- 4 Kementerian Pendidikan dan Kebudayaan, “KURIKULUM 2013 Kompetensi Dasar Sekolah Menengah/Madrasah Tsanawiyah”, 2013, p2
- 5 前掲4
- 6 Harry Sulastianto, Neneng Dian Handayani “*Terampil Belajar Seni Rupa untuk Kelas VII, VIII, dan IX Sekolah Menengah Pertama/Madrasah Tsanawiyah*” Grafino Media Pratama, 2009
- 7 ヌサンタラ(Nusantara)はマレー語ではマレー群島を意味するが、インドネシア語ではインドネシアの領土・領海を示している。本稿で使用している美術教科書ではインドネシアとヌサンタラの呼称が混在している。

## 参考文献

- SP Gustami, “*BUTIR-BUTIR MUTIARA ESTETIKA TIMUR Ide Dasar Penciptaan Seni Kriya Indonesia*” Prasita, Yogyakarta, 2007.



図 1 地域の応用美術、芸術の種類



図 2 応用美術作品の表現、工夫



図 3 地域の応用美術作品の鑑賞、工夫



図 4 地域の創造的美術表現、粘土による表現

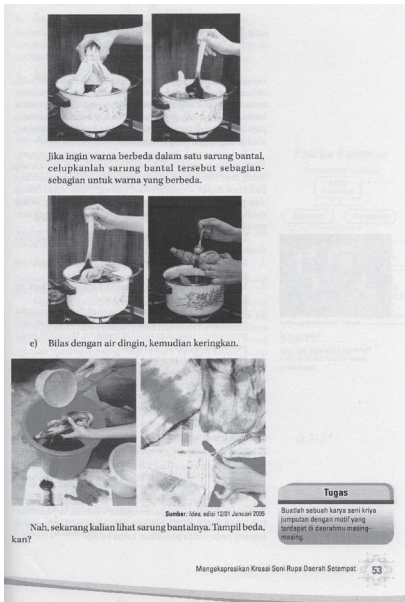


図 5 地域の創造的美術表現、パティック

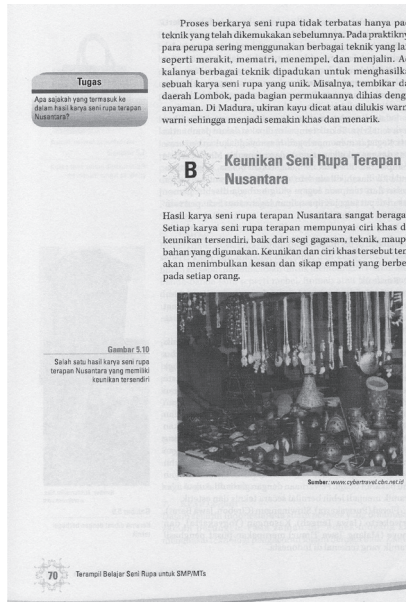


図 6 スサンタラの応用美術

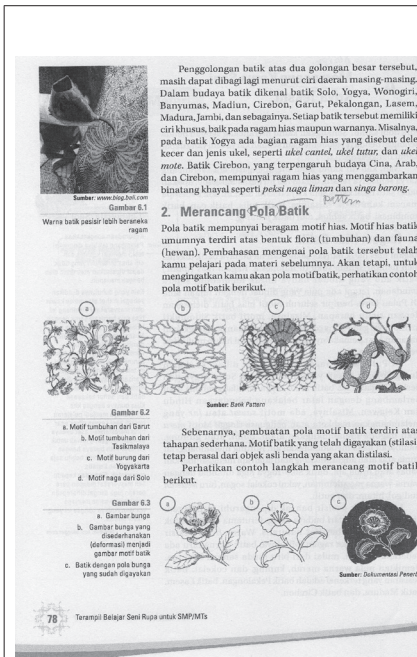


図7 テキスタイルと絵画、模様

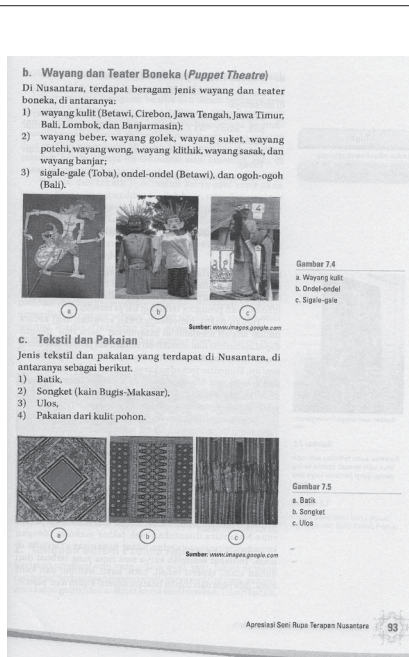


図8 ヌサンタラの応用美術の鑑賞、人形とテキスタイル

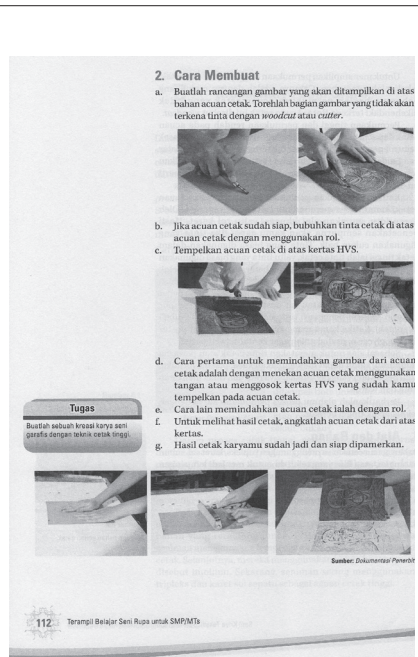


図9 グラフィック (版画)



図10 地域の純粋美術、絵画と彫刻

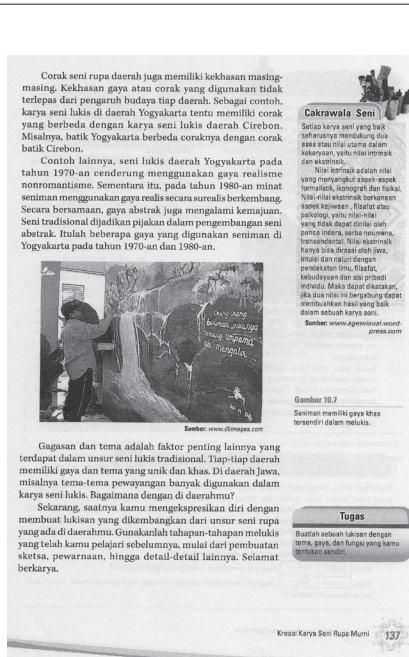


図11 純粋美術作品の創造



図12 インドネシアの純粋美術作品、ヒन्दウー時代

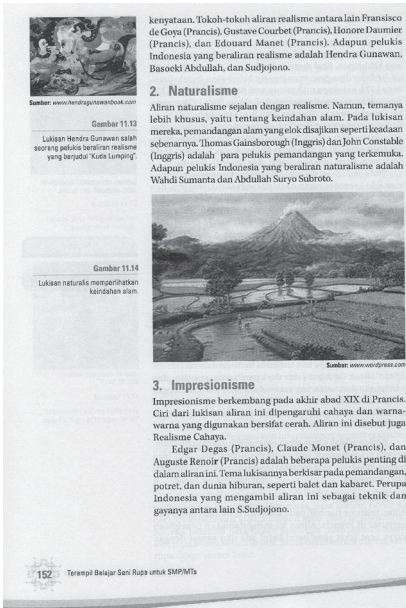


図13インドネシアの純粋美術作品、自然主義

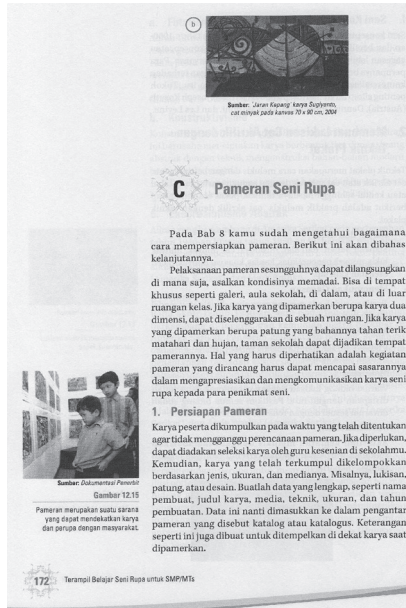


図14純粋美術の多様な表現、展覧会